豊富遺跡２　*Toyotomi-site2*
亀ヶ岡遺跡５　*Kamegaoka-site5*
筒木坂屏風山遺跡２　*Dogizaka-byobuzan-site2*
田小屋野貝塚３　*Tagoyano-shell-midden3*
下相野遺跡　*Shimoaino-site*

A report of excavation at
Toyotomi-site, Kamegaoka-site, Dogizaka-Byobuzan-site, Tagoyano-shell-midden &
Shimoaino-site

2012

TSUGARU-city Board of Education,
Aomori-Prefecture, Japan
青森県つがる市教育委員会

豊富遺跡2・亀ヶ岡遺跡5・筒木坂屏風山遺跡2・田小屋野貝塚3・下相野遺跡

2010・2011年度国庫補助事業市内遺跡発掘調査に伴う試掘調査報告書

2012

青森県つがる市教育委員会

はじめに

112ヶ所という多くの遺跡が所在するつがる市では、何か開発行為を行う場合には、必ずと言っていいほど、遺跡（埋蔵文化財）の保護との調整をはかる必要があります。また、計画段階で工事等の照会が寄せられた場合、教育委員会としては適切な回答を行い、埋蔵文化財の保護に努めなければなりません。

今回報告するのは、各種開発計画に対して適切な回答を行うために実施した試掘調査の内容です。調査の結果、亀ヶ岡遺跡や田小屋野貝塚では、すでに遺跡は破壊されているのではないかと推測されていた舗装道路下からも遺構や遺物が発見されました。今回の成果を踏まえた本書が地域の文化財の保護と当市の歴史を解明する資料として寄与できれば幸いに存じます。

調査の指導に当たられました文化庁・青森県教育委員会・つがる市遺跡保存検討会のみなさまや、調査地の地権者のみなさま及び周辺住民のみなさまに深く感謝申し上げます。

なお、最後になりましたが、永くつがる市の遺跡発掘調査の指導に当たられた、故・村越潔先生の御霊前に本書を捧げます。

2012（平成24）年3月

つがる市教育委員会
教育長　葛西　巌輔

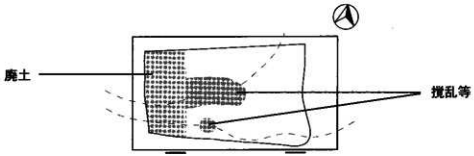
例　言

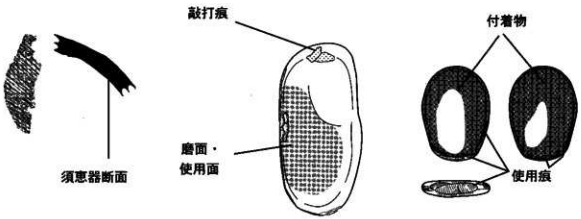
1．本書は、2010・2011（平成22・23）年度につがる市が国庫補助金及び県補助金を受けて実施した、市内遺跡発掘調査事業に伴う、豊富遺跡・亀ヶ岡遺跡・筒木坂屏風山遺跡・出小屋野貝塚・下相野遺跡の試掘調査報告書である。
2．調査は、つがる市教育委員会が担当し、佐野忠史（文化課学芸員）が調査担当者となり実施した。
3．調査に当たり、文化庁・青森県教育委員会・つがる市遺跡保存検討会（村越潔会長）の指導を受けた。
4．本書は、佐野忠史が編集・執筆した。
5．本書に掲載の写真は、佐野が撮影した。図版については佐野の指示のもと、職員・作業員が分担してこれを作成した。
6．石器の石材鑑定は、川村眞一氏（日本地学教育学会会員）の肉眼鑑定によった。
7．出小屋野貝塚から出土した珠洲焼の鑑定は、榊原滋高氏（五所川原市教育委員会）によった。
8．本書の刊行に至るまで、下記の方々の御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表するものである（敬称略・順不同）。

文化庁　青森県教育庁文化財保護課　つがる警察署　館岡財産区管理会　亀ヶ岡部落会　東北電力株式会社五所川原営業所　津軽広域水道企業団　NTT東日本青森支社　つがる市役所建設部土木課・下水道課　有限会社野呂建設　有限会社リージャン　有限会社友和商事　有限会社北未来物産　NPO法人つがる縄文の会　村越　潔　川村眞一　小山内壽一　榊原滋高　佐藤勇二　野呂康生　野呂　潔　野呂正利　横山久蔵　横山初子　対馬康徳　野呂實　野呂謙吾　野呂三嘉　野呂良司　小山内昭光　三橋　勤　対馬利春　水ノ江和同　川口潤　中村美杉　野村信生　小笠原雅行　盛昭男　竹内宏人　羽場喜代一　三上定雄

凡　例

1．図中の座標値は、国土方眼座標第Ⅹ系（世界測地系）の値であり、水準値は、東京湾中等潮位（T.P.）を基準とする値である。
2．図中には、それぞれスケールを示した。
3．図中の層位は、基本層序はローマ数字（Ⅰ・Ⅱなど）、遺構覆土は算用数字（1・2など）で表記した。
4．土層の色調は、『新版　標準土色帖』15版（小山ほか1995）を基準とした。
5．土層注記にある、混入物・内容物の土層に対する割合は、以下のとおりである。
　混入：40～50%　多量：25～30%程度　中量：15～20%程度　少量：5～10%程度　微量：5%未満
6．遺構・遺物図面のスクリーントーン等の指示は、下記のとおりである。





目　次

はじめに
例言
凡例
目次
第1章　調査要項 …… 1
第2章　豊富遺跡 …… 3
第3章　亀ヶ岡遺跡 …… 6
第4章　筒木坂屏風山遺跡 …… 15
第5章　田小屋野貝塚 …… 21
第6章　下相野遺跡 …… 29
第7章　まとめ …… 32
主要引用参考文献 …… 32
報告書抄録 …… 33
つがる市の文化財関係報告書 …… 34
奥付 …… 34

第1章　調査要項

1．調査目的

周知の埋蔵文化財包蔵地における各種開発計画に適切な指導・回答を行うための資料を得るための試掘調査を実施する。

2．調査遺跡名

豊富遺跡（とよとみいせき）　青森県遺跡番号209113　つがる市豊富町所在
亀ヶ岡遺跡（かめがおかいせき）　青森県遺跡番号209002　つがる市木造館岡沢根ほか所在
筒木坂屏風山遺跡（どうぎざかびょうぶざんいせき）　青森県遺跡番号209040
つがる市木造筒木坂屏風山所在
田小屋野貝塚（たごやのかいづか）　青森県遺跡番号209001　つがる市木造館岡田小屋野所在
下相野遺跡（しもあいのいせき）　青森県遺跡番号209066　つがる市森田町下相野所在

3．調査体制

【調査主体者】つがる市教育委員会（補助事業者　つがる市）
調査担当者・調査員　佐野忠史　つがる市教育委員会文化課学芸員・日本考古学協会会員
副担当（整理補助）　羽石智治　つがる市教育委員会文化課学芸員
作業員　葛西慎也　成田勇人　成田　靖　瓜田千恵子　鵜賀谷載子　舘山章子　天坂詩子

【調査指導機関】
文化庁文化財部記念物課・青森県教育庁文化財保護課
つがる市遺跡保存検討会
会　長　村越　潔　弘前大学名誉教授・日本考古学協会会員（平成23年8月27日逝去）
副会長　川村　眞一　元青森県立弘前工業高校校長・日本地学教育学会会員
委　員　小山内涛一　青森県文化財保護指導員

【事　務　局】つがる市教育委員会文化課文化財保護係

教育長	葛西　嶸輔	課長補佐	三浦　貴彦
教育次長	宮本　裕士	文化振興係長	野呂有恵子（22年度）
教育推進監	須藤　紳逸	文化振興係長	蝦名　紀子（23年度）
文化課長	小寺　保（22年度）	学芸員	佐野　忠史（調査主担当）
文化課長	三上みつる（23年度）	学芸員	羽石　智治（副担当）

4．その他

今回の調査で得られた、遺物・図面・写真等の諸資料は、つがる市教育委員会所管の施設に収蔵し、活用を図る。

5．報告書

2010・2011（平成22・23）年度調査分をまとめ、2011年度中に刊行する（300部）。

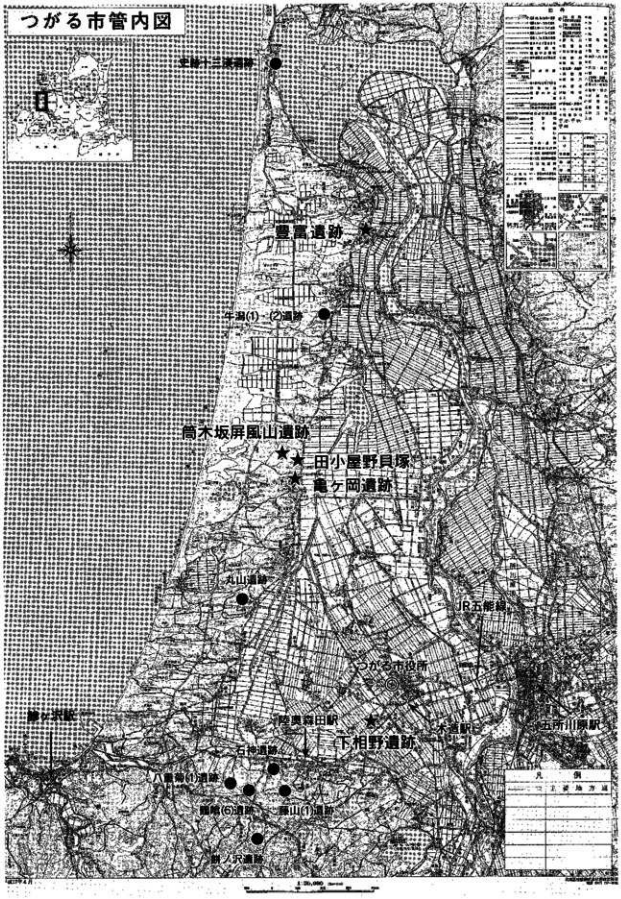


図1-1　調査遺跡と周辺の遺跡＜『青森県遺跡地図』(2009) などより改変作成＞

第2章　豊富遺跡

1．調査に至る経緯

道路整備（側溝新設）計画に伴い、事業計画地が豊富遺跡の範囲内に位置することから、事業者であるつがる市役所土木課と協議の結果、試掘調査を実施し、今後の判断を決することとした。

2．調査概要

調査地点：つがる市豊富町千貫33-1ほか

調査期間：2010（平成22）年8月10日（現況：宅地）

調査面積：5㎡

調査方法：事業計画地に3ヵ所の試掘坑<Tr-1～3>を設定して調査を実施し、遺構・遺物の存否を確認。記録写真（35mmスライド・カラー、デジタルカメラ使用）を撮影し、平面図・断面図（S=1/20）を作成した。

3．検出層序・遺構・遺物

現地表から1～1.5m程度掘削したが、層の上部を占める耕作土<Ⅰ～Ⅲ層>の下は、平安時代（10C）以降に堆積したとされる「新砂丘砂」<Ⅳ～Ⅵ層>（遠藤1996）に占められていた。また、遺構・遺物は全く検出されなかった。

4．調査結果

試掘調査の結果、遺構・遺物が全く検出されなかったため、工事に先立つ本発掘調査は不要と判断され、文化財保護法第94条第1項による通知が提出されたのち、県教育委員会からの「工事立会」の指示をへて、工事が着工された。

図2-1　豊富遺跡と調査地点<『青森県遺跡地図』（2009）などより改変作成>

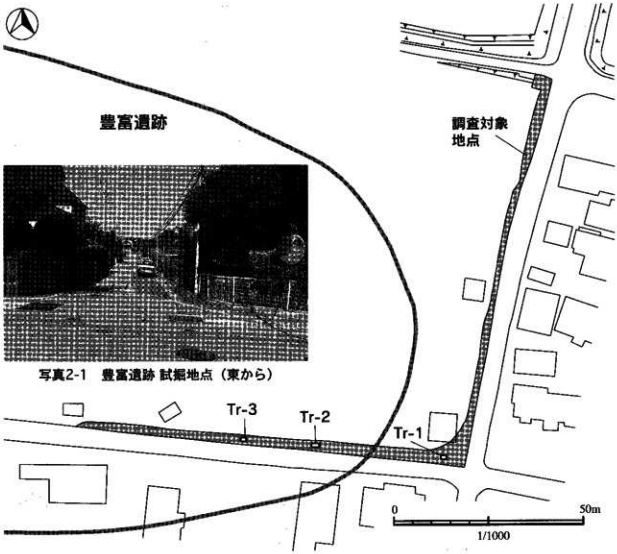


写真2-1　豊富遺跡 試掘地点（東から）

図2-2　豊富遺跡 試掘調査地点

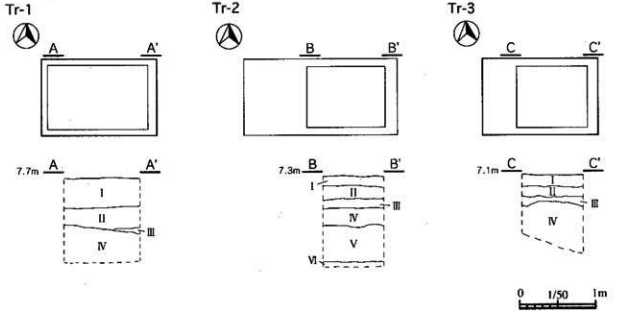


図2-3　豊富遺跡 Tr-1～3

Tr-1（南から）

Tr-1作業状況

Tr-2（南から）

Tr-2作業状況

Tr-3（南から）

Tr-3作業状況

試掘調査地点（東から）

試掘調査地点（西から）

写真2-2　豊富遺跡 試掘調査状況

第3章　亀ヶ岡遺跡

1．調査に至る経緯

上下水道敷設計画に伴い、本管埋設計画地である、市道亀ヶ岡館岡線などの道路が亀ヶ岡遺跡の範囲内に位置することから、事業者である津軽広域水道企業団等と協議の結果、試掘調査を実施し、今後の判断を決することとした。

図3-1　亀ヶ岡遺跡と調査地点<『青森県遺跡地図』(2009) などより改変作成>

2．調査概要

調査地点：つがる市木造館岡沢根83－37ほか

調査期間：2010(平成22)年10月20日～11月29日

調査面積：60㎡

調査方法：事業計画地の道路に15ヶ所の試掘坑<試掘1～15>を設定し、重機で道路舗装や撹乱を除去後調査を開始。遺構・遺物の存否を確認。記録写真（35mmスライド・カラー、デジタルカメラ使用）を撮影し、平面図・断面図・遺物ドットマップ（S=1/20）を作成した。

3．検出層序・遺構・遺物

確認された層序は、下記のとおりである。

Ⅰ層　上から道路舗装<Ⅰa層>、道路砕石<Ⅰb層>、撹乱<Ⅰc層>に細分

Ⅱ層　白頭山苫小牧火山灰<B-Tm>降灰以降の黒色土層

Ⅲ層　にぶい黄褐色～暗褐色土層（試掘-6では上部に白頭山苫小牧火山灰<B-Tm>が載る）

Ⅳ層　暗褐色やにぶい黄褐色を呈する縄文晩期頃の遺物包含層

Ⅴ層　地山と上部層との漸移層

Ⅵ層　粘土質ローム層（地山）

Ⅶ層　淡黄色砂混じりローム層（試掘-6・7の地山）

Ⅷ層　黄褐色砂層

（地形的に削平されている試掘-1の地山）

遺構は、試掘-6・8・10・12・14・15より15基検出された（表3-1）。試掘6-1号以外は縄文時代の遺構と判断され、掘り込み面の位置などから、その多くが晩期の遺構と考えられた。

また、遺物は試掘-6・8・10・12・14・15より縄文後期～弥生中期の土器など、コンテナ2箱分が出土した。

表3-1　亀ヶ岡遺跡 検出遺構リスト

No.	遺構番号	種別	年代
1	試掘6－1号	土坑	平安以後
2	試掘8－1号	土坑	縄文
3	試掘8－2号	土坑	縄文
4	試掘10－1号	ピット	縄文
5	試掘10－2号	土坑	縄文
6	試掘10－3号	土坑	縄文
7	試掘10－4号	ピット	縄文
8	試掘10－5号	土坑	縄文
9	試掘10－6号	土坑	縄文
10	試掘10－7号	土坑？	縄文
11	試掘12－1号	土坑？	縄文
12	試掘14－1号	土坑	縄文
13	試掘15－1号	ピット	縄文
14	試掘15－2号	ピット	縄文
15	試掘15－3号	ピット	縄文

4．調査結果

試掘調査の結果、遺構・遺物が検出されたため、工事

に先立つ本発掘調査は必須と判断され、この旨、事業者に対し口頭及び文書で通知した。また道路内の遺構・遺物包含層の状況から判断すれば、隣接する史跡範囲内では、住宅等は建っているものの基礎等が極めて浅いため、地下にはかなり良好な状態で遺構・遺物が遺存している状況が窺えた。なお、道路内で工事を実施する場合には、これに先立ち文化財保護法第94条第1項による通知が必要である。

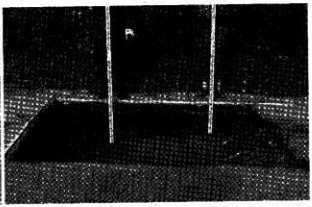
亀ヶ岡遺跡近景（南東から）

試掘調査地点<試掘-1～10>（東から）

試掘調査地点<試掘-14・15>（東から）

試掘-1（西から）

試掘-2（西から）



試掘-3 北壁土層断面（南から）

写真3-1　亀ヶ岡遺跡 試掘調査状況①

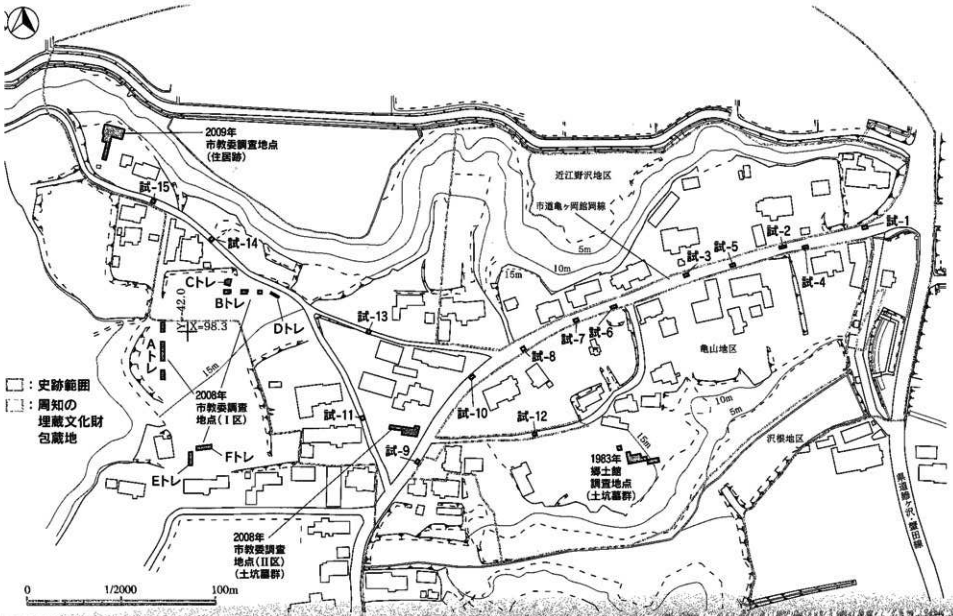


図3-2 亀ヶ岡遺跡(試掘調査地点)

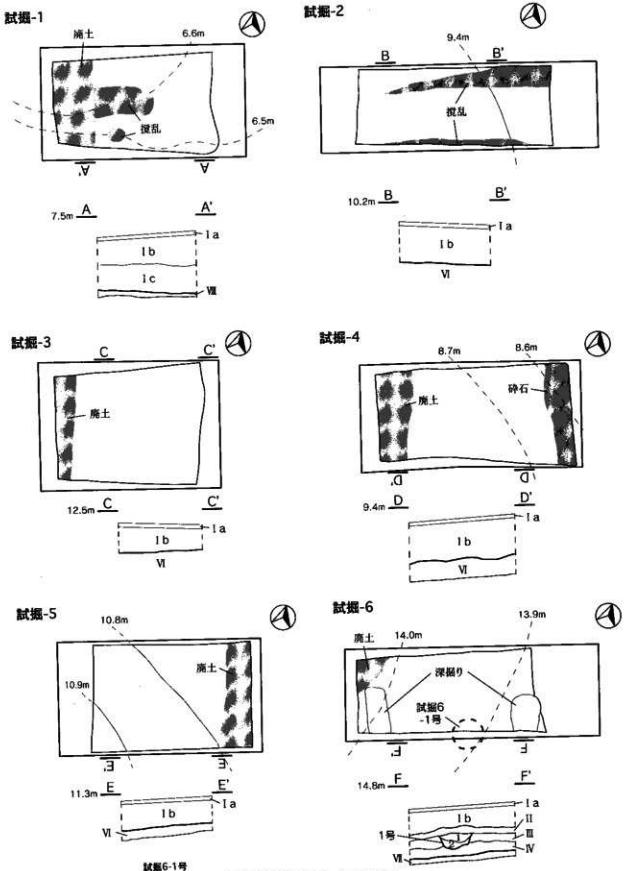
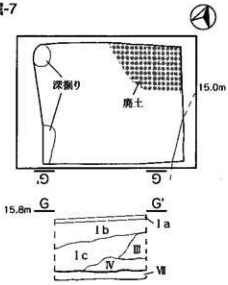
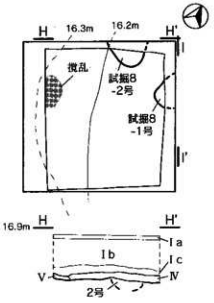


図3-3 亀ヶ岡遺跡 試掘-1～6

試掘-7

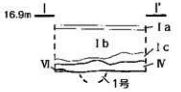


試掘-8

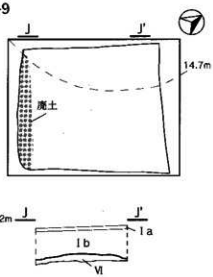


試掘8-1号
1 にぶい黄褐色土 [10YR5/4] ローム混入、炭化物中量

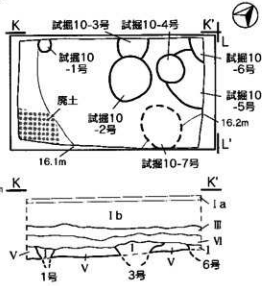
試掘8-2号
1 にぶい黄褐色土 [10YR5/4] ローム多量、炭化物中量



試掘-9



試掘-10

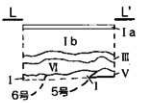


試掘10-1号
1 暗褐色土 [10YR3/4] ローム混入、炭化物少量

試掘10-3号
1 暗褐色土 [10YR3/3] ローム混入、炭化物少量

試掘10-5号
1 暗褐色土 [10YR3/4] ローム混入、炭化物少量

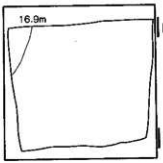
試掘10-6号
1 暗褐色土 [10YR3/3] ローム混入、炭化物少量

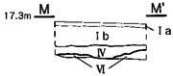


0 1/50 1m

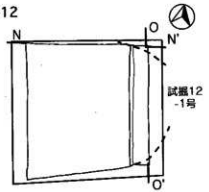
図3-4 亀ヶ岡遺跡 試掘-7~10

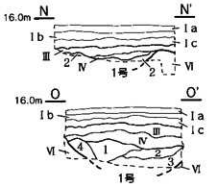
試掘-11





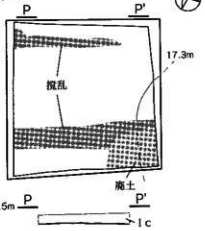
試掘-12



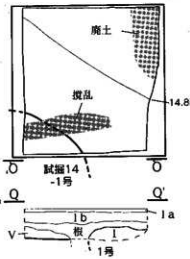


試掘12-1号
1 黒褐色土　[10YR3/2] ローム・炭化物少量
2 暗褐色土　[10YR3/4] ローム混入
3 にぶい黄褐色土 [10YR4/3] ローム混入
4 にぶい黄褐色土 [10YR4/3] ローム混入。しまり良

試掘-13

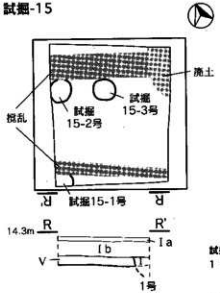


試掘-14



試掘14-1号
1 暗褐色土 [10YR3/3] ローム混入、炭化物中量

試掘-15



試掘15-1号
1 暗褐色土 [10YR3/4] ローム・炭化物混入

図3-5　亀ヶ岡遺跡 試掘-11～15

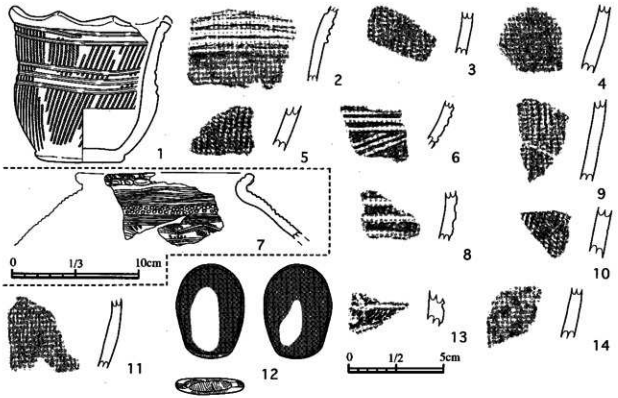


図3-6　亀ヶ岡遺跡 出土遺物

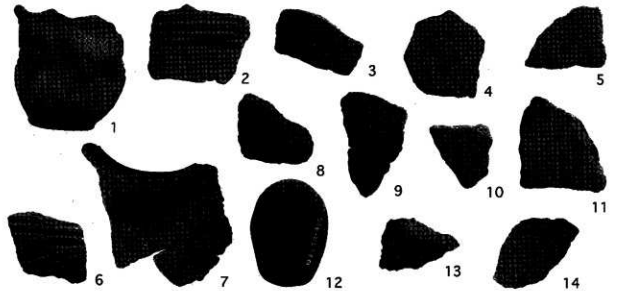
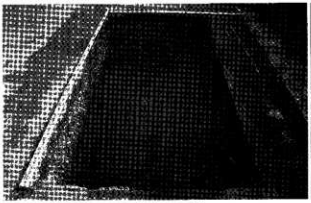


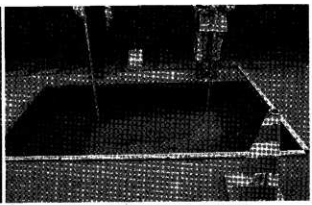
写真3-2　亀ヶ岡遺跡 出土遺物

表3-2　亀ヶ岡遺跡 出土遺物観察表

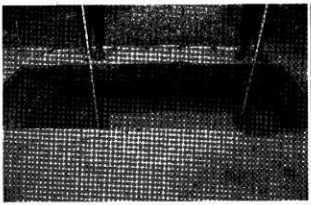
番号	種　別	器形	部位	出土位置	出土層位	年　代	型式・石材	備考	番号	種　別	器形	部位	出土位置	出土層位	年代	型式・石材	備考
1	縄文土器	壺　形	ほぼ完形	試掘12	Ⅳ層	縄文晩期	大　洞		8	縄文土器	深鉢形	胴部	試掘12-1号	2層	縄文後期	十腰内	
2	縄文土器	壺形？	口縁	試掘12	Ⅳ層	縄文晩期	大　洞		9	縄文土器	深鉢形	胴部	試掘12-1号	2層	縄文晩期	大　洞	
3	縄文土器	深鉢形	胴部	試掘12	Ⅳ層	縄文晩期	大　洞		10	縄文土器	深鉢形	胴部	試掘12-1号	2層	縄文晩期	大　洞	
4	縄文土器	深鉢形	胴部	試掘12	Ⅳ層	縄文晩期	大　洞		11	縄文土器	深鉢形？	胴部	試掘12-1号	2層	縄文晩期	大　洞	
5	縄文土器	深鉢形	胴部	試掘12	Ⅳ層	縄文晩期	大　洞		12	石　器	磨石器	一	試掘12-1号	2層	縄　文	安山岩	
6	弥生土器	鉢形	胴部	試掘12	Ⅳ層	弥生前期	砂　沢		13	縄文土器	深鉢形	胴部	試掘14-1号	堆積層	縄文後期	十腰内	
7	弥生土器	壺　形	口縁	試掘12	Ⅳ層	弥生中期	田舎館		14	縄文土器	深鉢形	胴部	試掘15-1号	堆積層	縄文晩期	大　洞	



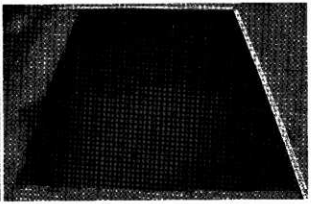
試掘-4（西から）



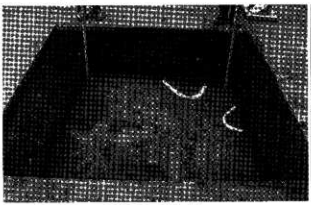
試掘-5 南壁土層断面（北から）



試掘-6 南壁土層断面（北から）

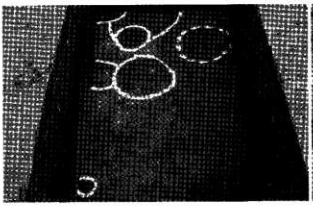


試掘-7（東から）

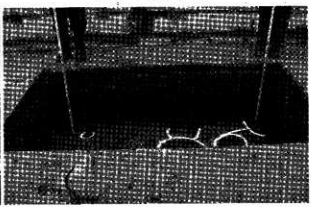


試掘-8（南から）

試掘-9（南東から）

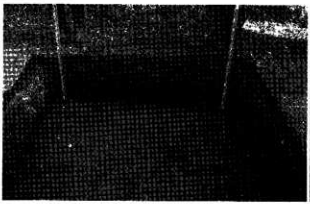


試掘-10（西から）



試掘-10 北壁土層断面（南から）

写真3-3　亀ヶ岡遺跡 試掘調査状況②



試掘-11（西から）

試掘-12（南から）

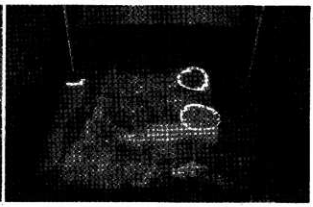
試掘-12 東側土層断面（西から）

試掘-12 遺物出土状況①（南東から）

試掘-12 遺物出土状況②（南東から）

試掘-13（南から）

試掘-14（北東から）



試掘-15（東から）

写真3-4　亀ヶ岡遺跡 試掘調査状況③

第4章　筒木坂屏風山遺跡

1．調査に至る経緯

土砂採取計画に伴い、事業計画地が筒木坂屏風山遺跡の範囲内に位置し、さらに縄文中期～後期の遺跡を中心に確認された2005・2006年度の本発掘調査地点（佐野ほか2008）の西側隣接地であることから、土地所有者等と協議の結果、試掘調査を実施し、今後の判断を決することとした。

図4-1　筒木坂屏風山遺跡と調査地点＜『青森県遺跡地図』（2009）などより改変作成＞

2．調査概要

調査地点：つがる市木造筒木坂屏風山243・245
（現況：山林）

調査期間：2011（平成23）年9月12日～9月30日

調査面積：25㎡

調査方法：事業計画地に7ヶ所の試掘坑＜Tr-1～7＞を設定してその部分の樹木を伐採し、うち4ヶ所＜Tr-2・4・5・7＞を調査して遺構・遺物の存否を確認。記録写真（35mmスライド・カラー、デジタルカメラ使用）を撮影し、平面図・断面図（S=1/20）を作成した。

3．検出層序・遺構・遺物

確認された層序は、下記のとおりである。

Ⅰ層　腐葉土層
Ⅱ層　黒色土層
Ⅲ層　褐色土層（縄文中期末葉～後期初頭の遺物包含層）
Ⅳ層　暗褐色土層
Ⅴ層　地山と上部層との漸移層
Ⅵ層　粘土質ローム層（地山）

遺構は、調査した試掘坑4ヶ所すべてから検出し、土坑・ピット8基を確認した（表4-1）。掘り込み面の位置から判断して、全てが縄文後期初頭以前の年代と推定された。

遺物は、主にⅣ層より縄文中期末葉～後期初頭の土器などコンテナ1箱分が出土した。

4．調査結果

試掘調査の結果、遺構・遺物が検出されたため、工事に先立つ本発掘調査は必須と判断され、この旨、土地所有者等に対し口頭及び文書で通知した。なお工事を実施する場合には、これに先立ち文化財保護法第93条第1項による届出が必要である。

表4-1　筒木坂屏風山遺跡 検出遺構リスト

No	遺構番号	種別	年代
1	Tr-2-1号	土　坑	縄　文
2	Tr-2-2号	ピット	縄　文
3	Tr-4-1号	土　坑	縄　文
4	Tr-4-2号	ピット	縄　文
5	Tr-5-1号	土　坑	縄　文
6	Tr-5-2号	土　坑	縄　文
7	Tr-5-3号	土　坑	縄　文
8	Tr-7-1号	土　坑	縄　文

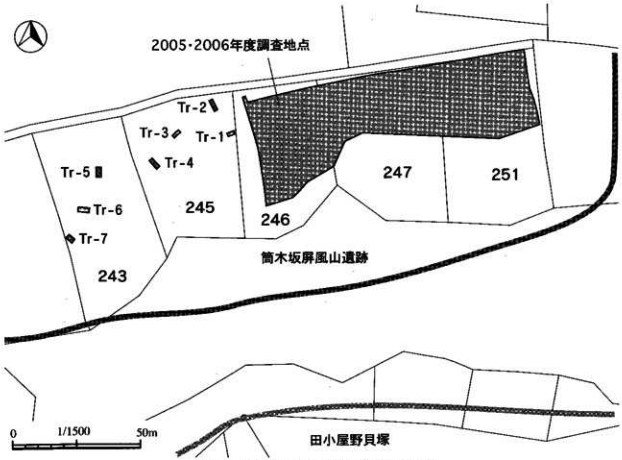


図4-2　筒木坂屏風山遺跡 試掘調査地点

筒木坂屏風山遺跡遠景（東から）

試掘調査地点近景（東から）

試掘調査地点 樹木伐採作業（Tr-7付近）

Tr-5 試掘調査状況（東から）

写真4-1　筒木坂屏風山遺跡 試掘調査状況①

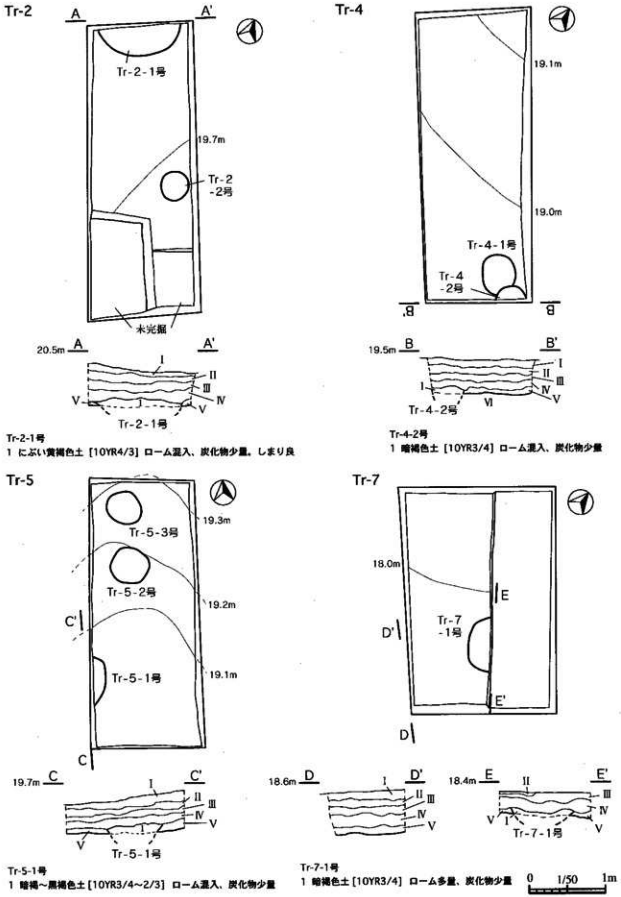


図4-3　筒木坂屏風山遺跡 Tr-2・4・5・7

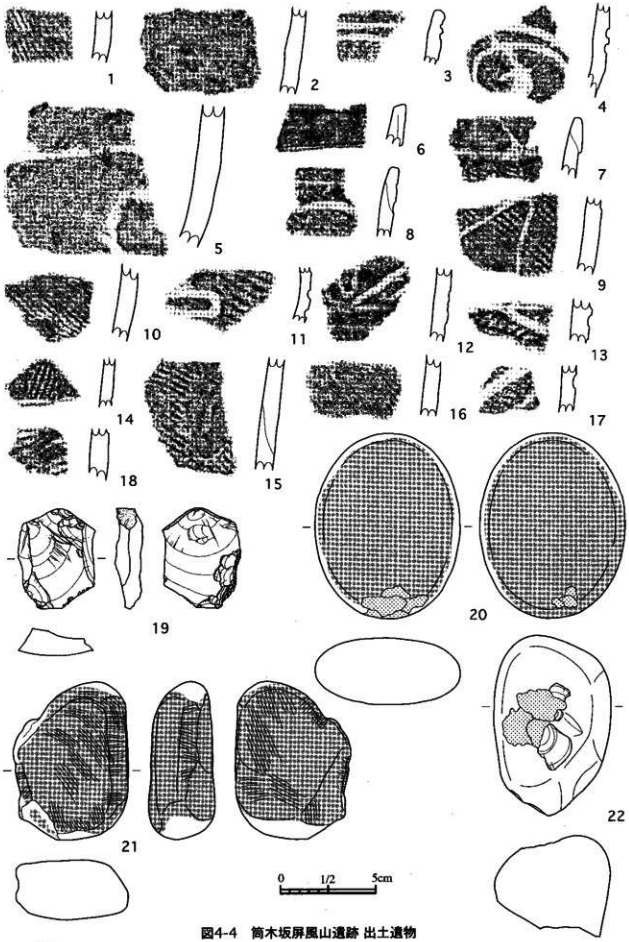


図4-4　筒木坂屏風山遺跡 出土遺物

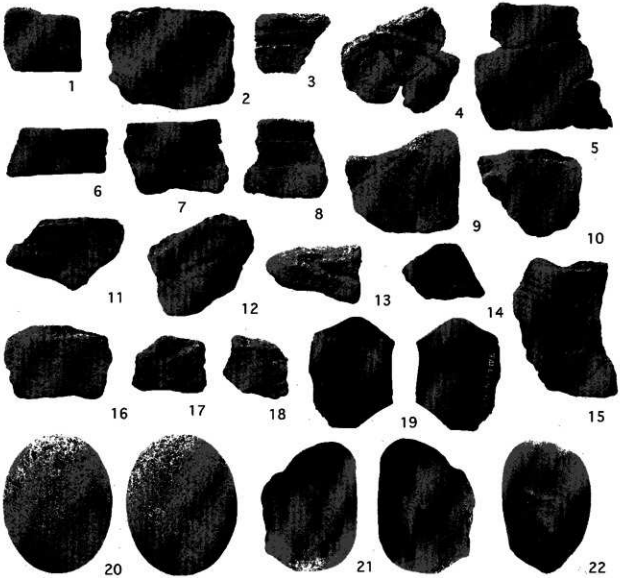
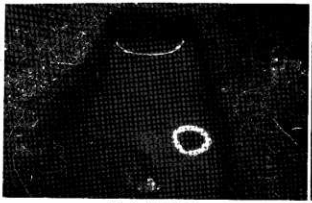


写真4-2　筒木坂屏風山遺跡 出土遺物

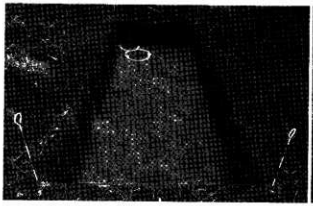
表4-2　筒木坂屏風山遺跡 出土遺物観察表

番号	種別	器形	部位	出土位置	出土層位	年代	型式・石材	備考
1	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-4	I 層	縄文中期末葉～後期初頭	—	
2	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-4	IV層	縄文中期末葉～後期初頭	—	
3	縄文土器	深鉢形	口縁	Tr-7	III層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
4	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層	縄文中期末葉～後期初頭	—	
5	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
6	縄文土器	深鉢形	口縁	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
7	縄文土器	深鉢形	口縁	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
8	縄文土器	深鉢形	口縁	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
9	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
10	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
11	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
12	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
13	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
14	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層上部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
15	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層下部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
16	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層下部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
17	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層下部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
18	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-7	IV層下部	縄文中期末葉～後期初頭	—	
19	石器	剥片	—	Tr-7	IV層上部	縄文	珪質頁岩	
20	石器	磨石	—	Tr-7	IV層上部	縄文	花崗閃緑岩	
21	石器	磨石	—	Tr-7	IV層上部	縄文	珪質凝灰岩	
22	石器	敲石	—	Tr-7	IV層下部	縄文	珪質頁岩	



Tr-2（南から）

Tr-2 作業状況

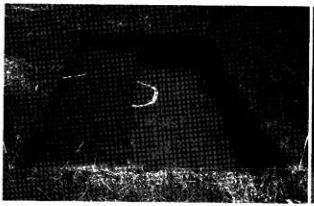


Tr-4（北西から）

Tr-4 南壁土層断面（北西から）

Tr-5（南から）

Tr-5 西壁土層断面（東から）



Tr-7（北西から）

Tr-7 西壁土層断面（北東から）

写真4-3　筒木坂屏風山遺跡 試掘調査状況②

第５章　田小屋野貝塚

１．調査に至る経緯

上下水道敷設計画に伴い、本管埋設計画地である市道田小屋野上沢辺線などの道路や、そこから配管される宅地周辺が田小屋野貝塚の範囲内に位置することから、事業者である津軽広域水道企業団等と協議の結果、配管予定地周辺を含め試掘調査を実施し、今後の判断を決することとした。

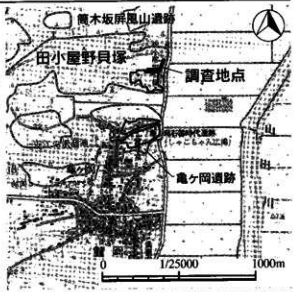


図5-1　田小屋野貝塚と調査地点＜『青森県遺跡地図』(2009）などより改変作成＞

２．調査概要

調査地点：つがる市木造館岡田小屋野5-7ほか
（道路敷地ほか）

調査期間：2011(平成23)年10月28日～11月21日

調査面積：110㎡

調査方法：事業計画地の道路に5ヶ所＜Tr-1～5＞、宅地周辺の畑地に5ヵ所＜Tr-6～10＞の試掘坑を設定し、重機で道路舗装や撹乱、耕作土を除去後調査を開始し、遺構・遺物の存否を確認。記録写真（35mmスライド・カラー、デジタルカメラ使用）を撮影し、平面図・断面図（S=1/20）を作成した。

３．検出層序・遺構・遺物

確認された層序は、下記のとおりである。

Ⅰ層　道路舗装＜Ⅰa層＞、道路砕石＜Ⅰb層＞、撹乱・耕作土・埋土＜Ⅰc層＞に細分

Ⅱ層　褐色土層

Ⅲ層　暗褐色や黒褐色を呈する、縄文前～中期の円筒土器文化期の遺物包含層

Ⅳ層　地山と上部層との漸移層

Ⅴ層　粘土質ローム層（地山）

遺構は、今回の調査地点北部のTr-5・6以外から22基が発見された。発見された遺構は、Tr-7-1～4号、Tr-10-2号以外は全て円筒土器文化期のものと判断された(表5-1)。特出されるのは、Tr-2-1号

表5-1　田小屋野貝塚 検出遺構リスト

No.	遺構番号	種別	年代	No.	遺構番号	種別	年代	No.	遺構番号	種別	年代
1	Tr-1-1号	土　坑?	縄　文	9	Tr-8-1号	ピ ッ ト	縄　文	17	Tr-10-3号	ピ ッ ト	縄　文
2	Tr-2-1号	竪穴住居	縄　文	10	Tr-8-2号	ピ ッ ト	縄　文	18	Tr-10-4号	ピ ッ ト	縄　文
3	Tr-3-1号	竪穴住居?	縄　文	11	Tr-8-3号	ピ ッ ト	縄　文	19	Tr-10-5号	ピ ッ ト	縄　文
4	Tr-4-1号	土　坑	縄　文	12	Tr-8-4号	竪穴住居?	縄文?	20	Tr-10-6号	ピ ッ ト	縄　文
5	Tr-7-1号	土　坑?	平　安	13	Tr-9-1号	竪穴住居	縄　文	21	Tr-10-7号	ピ ッ ト	縄　文
6	Tr-7-2号	ピ ッ ト	平　安	14	Tr-9-2号	土　坑?	縄　文	22	Tr-10-8号	ピ ッ ト	縄　文
7	Tr-7-3号	ピ ッ ト	平　安	15	Tr-10-1号	竪穴住居	縄　文				
8	Tr-7-4号	ピ ッ ト	平　安	16	Tr-10-2号	竪穴住居	平　安				

など、円筒土器文化期の竪穴住居跡が5軒発見されたことであり、平成21年度の試掘調査（佐野2010b）でも指摘したとおり、これによって円筒土器文化期の遺跡が史跡範囲北側隣接地まで連続することが確実となった。

遺物は円筒下層式土器など、縄文前期～中期の土器、平安時代の土師器・須恵器、中世の珠洲焼の擂鉢（珠洲Ⅳ期）の破片など、コンテナ1箱分が出土した。

4．調査結果

試掘調査の結果、遺構・遺物が検出されたため、工事に先立つ本発掘調査は必須と判断され、この旨、事業者に対し口頭及び文書で通知した。また今回の試掘調査結果による史跡周辺の遺構・遺物包含層の状況から判断すれば、隣接する史跡範囲内では、ビニールハウスや住宅等は建っているもののその基礎等は概めて浅いため、地下にはかなり良好な状態で遺構・遺物が遺存している状況が窺えた。なお工事を実施する場合には、これに先立ち文化財保護法第94条第1項による通知が必要である。

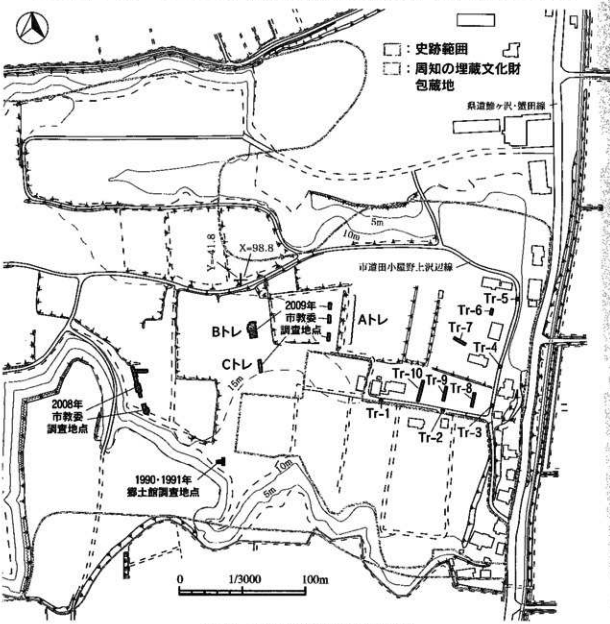


図5-2　田小屋野貝塚 試掘調査地点

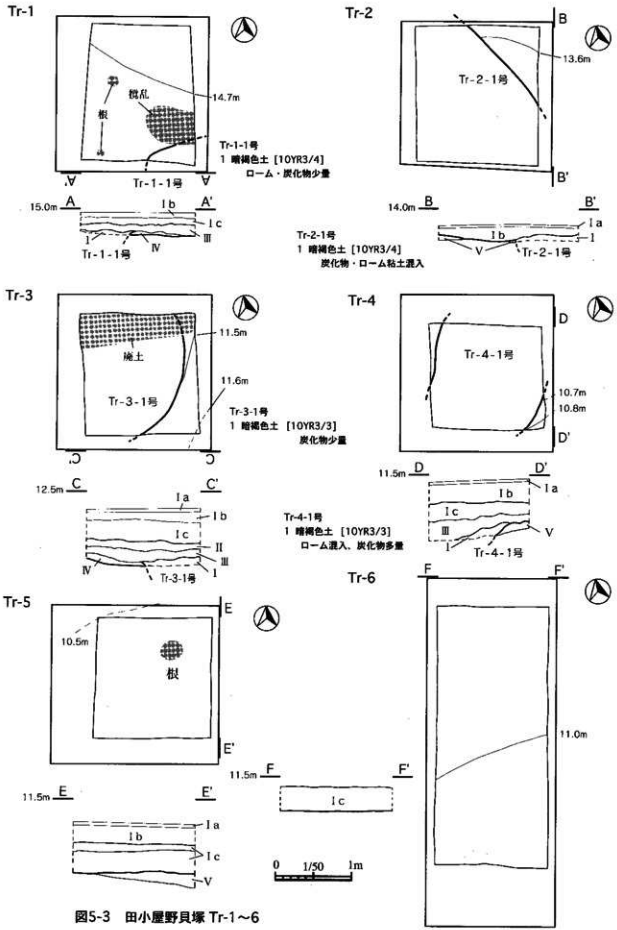


図5-3　田小屋野貝塚 Tr-1～6

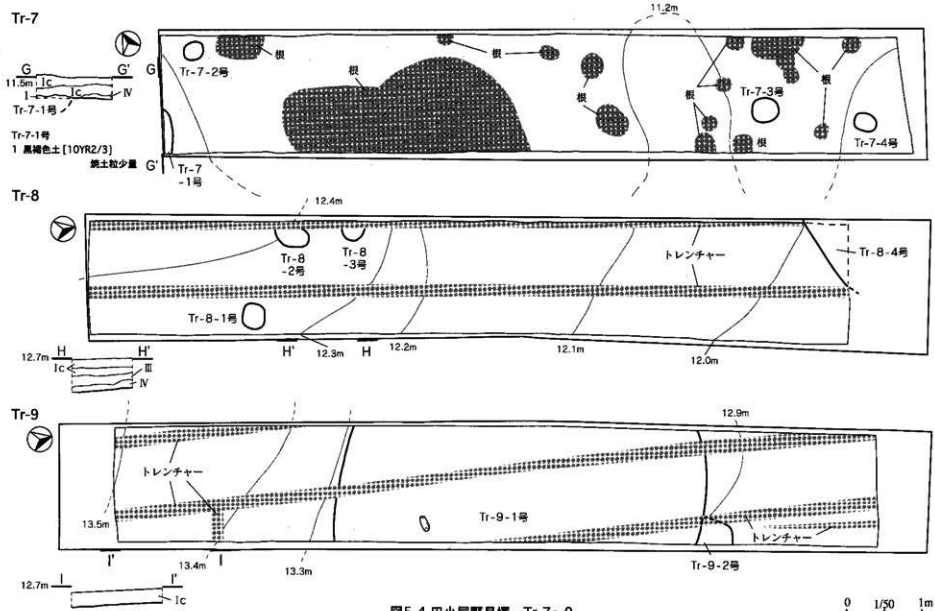


図5-4 田小屋野貝塚　Tr-7～9

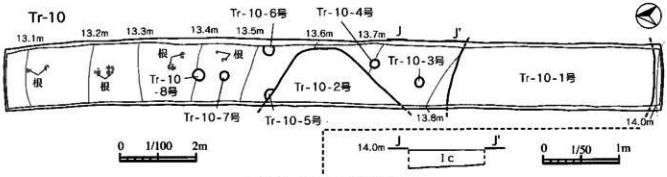


図5-5　田小屋野貝塚 Tr-10

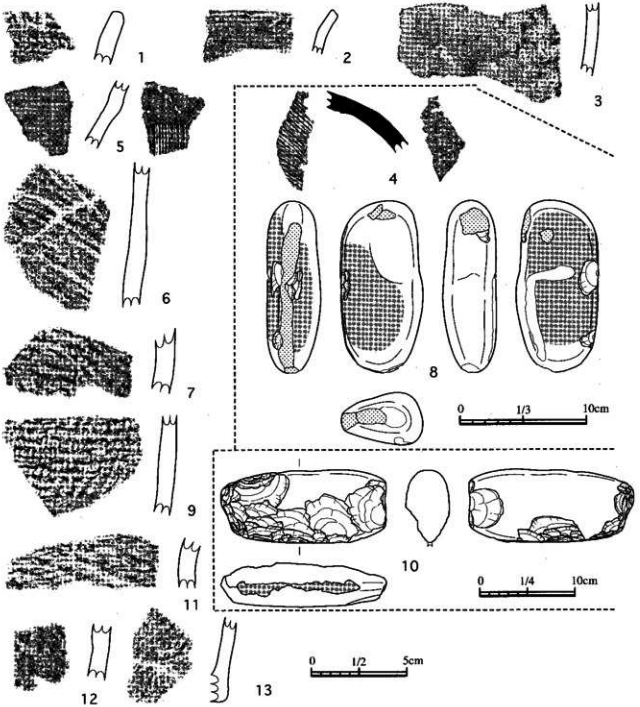


図5-6　田小屋野貝塚 出土遺物

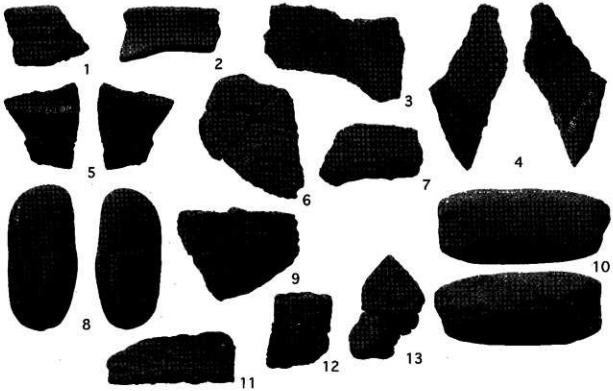


写真5-1　田小屋野貝塚 出土遺物

表5-2　田小屋野貝塚 出土遺物観察表

番号	種別	器形	部位	出土位置	出土層位	年代	型式・石材	備考
1	縄文土器	深鉢形	口縁	Tr-1	III層	縄文中期?	円筒上層a?	
2	土師器	甕	口縁	Tr-7	Ic層	平　安	—	
3	土師器	甕	胴部	Tr-7	Ic層	平　安	—	
4	須恵器	甕	胴部	Tr-7	Ic層	平　安	—	
5	陶　器	擂鉢	胴部	Tr-7	Ic層	中世（14C後半～15C前半）	珠　洲	珠洲IV
6	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-8	III層	縄文中期	円筒上層?	
7	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-8	III層	縄文中期	円筒上層?	
8	石　器	磨　石	—	Tr-8	III層	縄　文	安山岩	
9	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-9-1号	確認面	縄文中期	円筒上層?	
10	石　器	石　錘	—	Tr-9-1号	確認面	縄　文	安山岩	
11	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-10-1号	確認面	縄文前期	円筒下層	
12	縄文土器	深鉢形	口縁	Tr-10-1号	確認面	縄文前期	円筒下層	
13	縄文土器	深鉢形	胴部	Tr-10-2号	確認面	縄文前期	円筒下層	

田小屋野貝塚遠景（南西から）

試掘調査地点<Tr-2付近>（西から）

写真5-2　田小屋野貝塚 試掘調査状況①

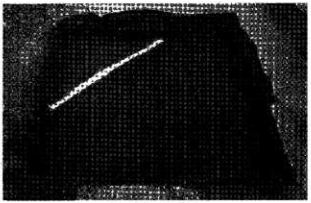
試掘調査地点<Tr-3～5付近>（南から）

試掘調査地点<Tr-8付近>（北東から）

道路カッター作業風景<Tr-4>（南から）

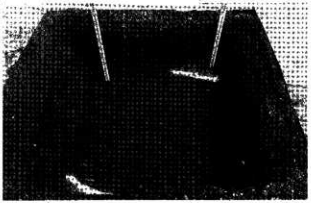
重機掘削作業<Tr-1>（東から）

Tr-1（西から）



Tr-2（西から）

Tr-3（北から）

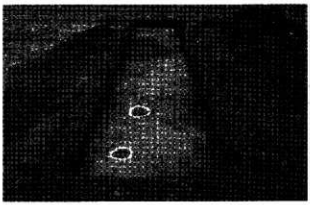


Tr-4（西から）

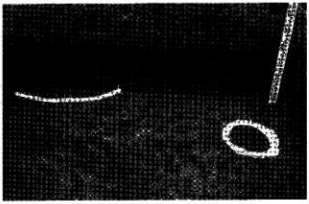
写真5-3　田小屋野貝塚 試掘調査状況②

Tr-5（西から）

Tr-6（東から）



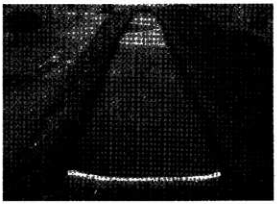
Tr-7（東から）



Tr-7 西壁土層断面（東から）

Tr-8（北から）

Tr-9（北から）



Tr-10（南から）

田小屋野貝塚 試掘調査参加者

写真5-4　田小屋野貝塚 試掘調査状況③

第6章　下相野遺跡

1．調査に至る経緯

近路整備（舗装及び側溝整備）計画に伴い、事業計画地が下相野遺跡の範囲内に位置することから、事業者であるつがる市役所土木課と協議の結果、計画地の道路の脇で、かつて素掘りの側溝があったとされる畑地で試掘調査を実施し、今後の判断を決することとした。

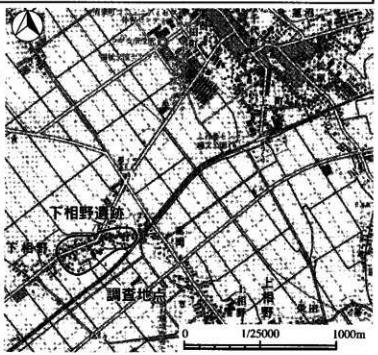


図6-1　下相野遺跡と調査地点<『青森県遺跡地図』(2009)などより改変作成>

2．調査概要

調査地点：つがる市森田町下相野
　　住吉51-1（現況：畑地）
調査期間：2011（平成23）年
　　11月24～29日
調査面積：10㎡
調査方法：事業計画地脇に2ヶ所の試掘坑<Tr-1・2>を設定して調査を実施し、重機で耕作土・盛土等を除去後調査を開始し、遺構・遺物の存否を確認。記録写真（35mmスライド・カラー、デジタルカメラ使用）を撮影し、平面図・断面図（S=1/20）を作成した。

3．検出層序・遺構・遺物

確認された層序は、下記のとおりである。Ⅲ層以下は非常な湧水を伴った。

Ⅰ層　耕作土上層<Ⅰa層>、耕作土下層<Ⅰb層>
Ⅱ層　近年の盛土層（Ⅴ層土と焼土が混入する黒褐色土層）
Ⅲ層　焼土の混入する黒色土層（土師器包含層だが、攪乱の可能性有）
Ⅳ層　地山と上部層との漸移層
Ⅴ層　黄橙色粘土層（地山）

遺構は、調査した2ヶ所から、平安時代の溝跡と思われる遺構が1基ずつ確認された（表6-1）。
遺物はⅡ・Ⅲ層より土師器が数点出土した。

4．調査結果

試掘調査の結果、計画地脇から遺構・遺物が検出された。事業者にこの旨連絡したところ、計画はまだ構想段階であり実施計画ではないとのことであったため、工事実施計画を組む段階で再度協議したい旨通知した。なお工事を実施する場合には、これに先立ち文化財保護法第94条第1項による通知が必要である。

表6-1　下相野遺跡 検出遺構リスト

No	遺構番号	種 別	年代
1	Tr-1-1号	溝 跡?	平 安
2	Tr-2-1号	溝 跡?	平 安

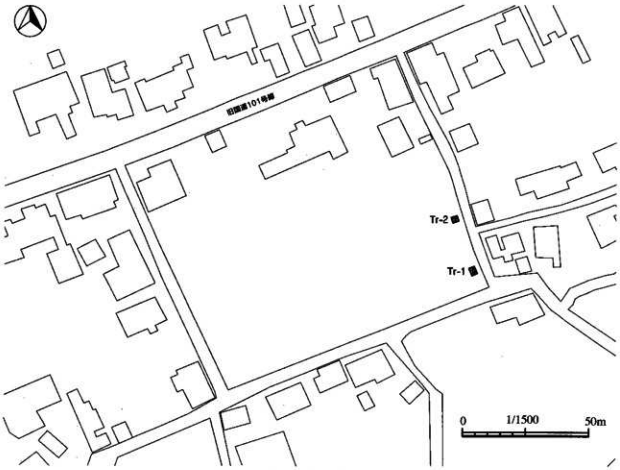


図6-2　下相野遺跡 試掘調査地点

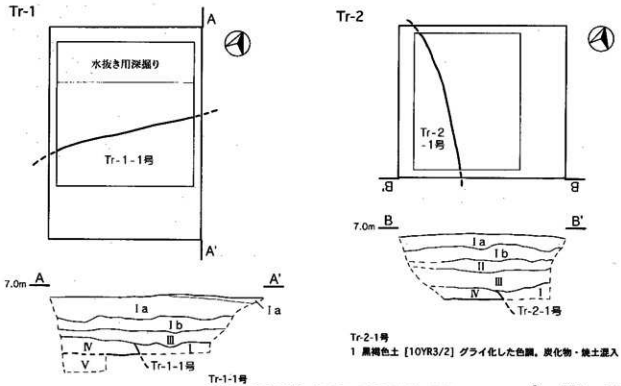


図6-3　下相野遺跡 Tr-1・2

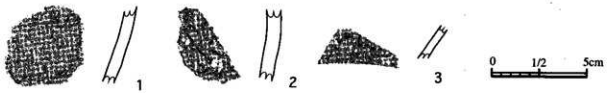


図6-4　下相野遺跡 出土遺物

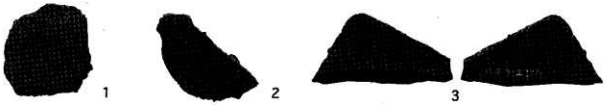


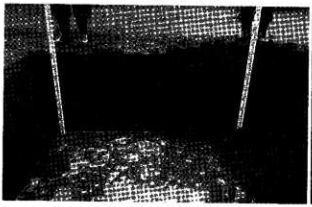
写真6-1　下相野遺跡 出土遺物

表6-2　下相野遺跡 出土遺物観察表

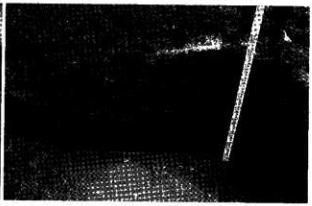
番号	種別	器形	部位	出土位置	出土層位	年代	備考
1	土師器	甕	胴部	Tr－1	Ⅲ層	平安	
2	土師器	甕	胴部	Tr－2	Ⅱ層	平安	
3	土師器	坏	胴部	Tr－2	Ⅲ層	平安	

試掘調査地点（北から）

Tr-2 重機掘削作業状況（南西から）



Tr-1（西から）



Tr-2（北から）

写真6-2　下相野遺跡 試掘調査状況

第7章　まとめ

2010～2011（平成22～23）年度にかけて実施した、各種開発に関連した試掘調査をここに報告した。これらの調査によって開発に対して適切な解答・指導を行える資料を得ることができた。特に、上下水道敷設計画に伴い実施した亀ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚での試掘調査では、舗装道路下より縄文時代の遺構・遺物が発見され、すでに遺跡が破壊されていると思い込まれがちの道路敷地内でも、開発にあたっては十分に遺跡の存在を考慮する必要があることを、開発側や文化財保護側、そして地域住民に注意喚起する成果があった。また、特に亀ヶ岡遺跡の試掘地点は史跡指定地に近接するところであり、そこから縄文晩期を中心とすると考えられる遺構が発見されたことから、調査事例の少ない史跡範囲内で宅地化している台地部分（亀山地区）には、現在も破壊されることなく該期の遺構が良好な状態で遺存していることが十分窺えた。このことは、史跡範囲に近接する道路で試掘調査を実施した田小屋野貝塚にも言えることであり、史跡亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚の現状変更の協議についても、今回の調査結果は、有効な資料と言える。

主要引用参考文献

青森県教育委員会　(1998)　『青森県遺跡地図』

青森県教育委員会　(2009)　『青森県遺跡地図』

青森県教育庁文化財保護課　(2011)　『青森県遺跡詳細分布調査報告書23』青森県埋蔵文化財調査報告書第510集　青森県教育委員会

江坂輝彌・村越　潔　(1970)　『石神遺跡』　森田村教育委員会（ニュー・サイエンス社）

遠藤邦彦　(1996)　『洪積半島屏風山砂丘のパラボナ砂丘』『第四紀露頭集 -日本のテフラ-』　日本第四紀学会

小山正忠・竹原秀雄　(1995)　『新版　標準土色帖』15版　日本色研事業株式会社

鹿藤春ほか　(1998)　『豊富遺跡発掘調査報告書』車力村文化財調査報告書第５集　車力村教育委員会

佐野忠史　(2000)　『石神遺跡３』森田村遺跡整備・活用計画発掘調査報告書３　森田村教育委員会

佐野忠史　(2003)　『八重菊(1)遺跡３・鶏鳴(6)遺跡・鶏鳴(8)遺跡』森田村緊急発掘調査報告書第９集　森田村教育委員会

佐野忠史　(2004b)　『藤山(1)遺跡』森田村緊急発掘調査報告書第12集　森田村教育委員会

佐野忠史　(2006b)　『砂丘の中の遺跡　-牛潟(1)(2)遺跡-』『図説　五所川原・西北津軽の歴史』　郷土出版社

佐野忠史　(2008)　『石神遺跡６』つがる市遺跡調査報告書第1集　つがる市教育委員会

佐野忠史ほか　(2008)　『隋木坂屏風山遺跡』つがる市遺跡調査報告書第２集　つがる市教育委員会

佐野忠史　(2009)　『牛潟(2)遺跡３』つがる市遺跡調査報告書第３集　つがる市教育委員会

佐野忠史　(2010a)　『牛潟(1)遺跡５』つがる市遺跡調査報告書第４集　つがる市教育委員会

佐野忠史　(2010b)　『田小屋野貝塚２・亀ヶ岡遺跡４・上沢辺(2)遺跡』つがる市遺跡調査報告書第５集
つがる市教育委員会

佐野忠史　(2011)　『石神遺跡７』つがる市遺跡調査報告書第６集　つがる市教育委員会

清水潤三　(1959)　『亀ヶ岡遺跡』　三田史学会

高橋　龍・盛山義人　(2005)　『牛潟(2)遺跡』車力村文化財調査報告書第８集　車力村教育委員会（簡易印刷）

塚田直哉　(2002)　『花林遺跡』車力村文化財調査報告書第７集　車力村教育委員会

つがる市教育委員会　(2009)　『史跡亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚保存管理計画書』　文化庁・青森県教育委員会・
つがる市教育委員会

村越　潔　(1974)　『円筒土器文化』考古学選書10　雄山閣

村越　潔　(1984)　『増補　円筒土器文化』考古学選書10　雄山閣

報告書抄録

ふりがな	とよとみいせき2・かめがおかいせき5・どうぎざかびょうぶざんいせき2・たこやのかいつか3・しもあいのいせき
書名	豊富遺跡2・亀ヶ岡遺跡5・筒木坂屋風山遺跡2・田小屋野貝塚3・下相野遺跡
副書名	2010・2011年度国際補助事業市内遺跡発掘調査に伴う試掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	つがる市遺跡調査報告書
シリーズ番号	7
編著者名	佐野忠史
編集機関	つがる市教育委員会
所在地	〒038-3138青森県つがる市木造若緑52　TEL0173-49-1194（文化課）
発行年月日	西暦2012年（平成24年）3月31日

ふりがな 収録遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 日本測地系 (TokyoDatum)	北緯 世界測地系 (JDG2000)	東経 日本測地系 (TokyoDatum)	東経 世界測地系 (JDG2000)	調査期間	調査面積	調査原因
とよとみいせき 豊富遺跡	あおもりけんつがるし 青森県つがる市 とよとみちょうせんがん 豊富町千貫 33-1ほか	02209	209113	40°58′10″	40°58′20″	140°22′33″	140°22′21″	2010.8.10	5㎡	国庫補助事業 （市内遺跡発掘調査：開発対応試掘）
かめがおかいせき 亀ヶ岡遺跡	あおもりけんつがるし 青森県つがる市 きづくりたておかさわね 木造館岡沢根 83－37ほか	02209	209002	40°52′53″	40°53′03″	140°20′26″	140°20′14″	2010.10.20 ～ 2010.11.29	60㎡	国庫補助事業 （市内遺跡発掘調査：開発対応試掘）
どうぎざかびょうぶざんいせき 筒木坂屋風山遺跡	あおもりけんつがるし 青森県つがる市 きづくりどうぎざかびょうぶざん 木造筒木坂屋風山 243ほか	02209	209040	40°53′16″	40°53′26″	140°20′03″	140°19′51″	2011.9.12 ～ 2011.9.30	25㎡	国庫補助事業 （市内遺跡発掘調査：開発対応試掘）
たこやのかいつか 田小屋野貝塚	あおもりけんつがるし 青森県つがる市 きづくりたておかたこやの 木造館岡田小屋野 5-7ほか	02209	209001	40°53′05″	40°53′15″	140°20′34″	140°20′22″	2011.10.28 ～ 2011.11.21	110㎡	国庫補助事業 （市内遺跡発掘調査：開発対応試掘）
しもあいのいせき 下相野遺跡	あおもりけんつがるし 青森県つがる市 もりたちょうしもあいのやあよし 森田町下相野作市51-1	02209	209066	40°47′33″	40°47′43″	140°22′40″	140°22′28″	2011.11.24 ～ 2011.11.29	10㎡	国庫補助事業 （市内遺跡発掘調査：開発対応試掘）

収録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
豊富遺跡	集落跡		なし	なし	
亀ヶ岡遺跡	集落跡	縄文晩期	土坑・ピット　14基	大洞式土器・石器	縄文時代の遺構の多くは検出と推定
		弥生		砂沢式土器・田舎館式土器	
		平安以後	土坑　1基	土師器・須恵器	
筒木坂屋風山遺跡	集落跡	縄文中期～後期	土坑・ピット　8基	縄文中期後葉～後期初頭土器・石器	遺構は縄文後期初頭以前と推定
田小屋野貝塚	集落跡	縄文前～中期	竪穴住居跡　5基	円筒土器・石器	縄文時代の遺構は円筒上層文化期と推定
			土坑・ピット　12基		
		平安	竪穴住居跡　1基	土師器・須恵器	
			土坑？・ピット　4基		
		中世		珠洲焼	
下相野遺跡	散布地	平安	溝跡？　2基	土師器	

要約（調査概要）

豊富遺跡では、遺構・遺物等は確認されなかった。

亀ヶ岡遺跡では、道路下より遺構・遺物が確認され、上下水道本管工事箇所に本調査が必要と判断された。

筒木坂屋風山遺跡では、土砂採取予定地より遺構・遺物が確認され、工事前に本調査が必要と判断された。

田小屋野貝塚では、道路下や宅の周辺より遺構・遺物が確認され、上下水道本管等の工事前に本調査が必要と判断された。

下相野遺跡では、工事計画（構想）地盤より遺構・遺物が確認され、工事実施計画を組む段階で再度協議が必要と判断された。

亀ヶ岡遺跡・田小屋野貝塚の試掘調査の結果から、隣接する史跡範囲内では、地下にかなり良好な状態で遺構・遺物が遺存している状況が窺えた。

つがる市の文化財関係報告書

＜遺跡調査報告書＞

	書名	発行年
1	石神遺跡6	2008（平成20）
2	筒木坂屏風山遺跡	2008（平成20）
3	牛潟(2)遺跡3	2009（平成21）
4	牛潟(1)遺跡5	2010（平成22）
5	田小屋野貝塚2・亀ヶ岡遺跡4・上沢辺(2)遺跡	2010（平成22）
6	石神遺跡7	2011（平成23）
7	豊富遺跡2・亀ヶ岡遺跡5・筒木坂屏風山遺跡2・田小屋野貝塚3・下相野遺跡	2012（平成24）

＜史跡保存管理計画書＞

	書名	発行年
1	史跡亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚保存管理計画書	2009（平成21）

豊富遺跡2・亀ヶ岡遺跡5・筒木坂屏風山遺跡2・田小屋野貝塚3・下相野遺跡

つがる市遺跡調査報告書　第7集

発　　行　青森県つがる市教育委員会
〒038-3138　青森県つがる市木造若緑52
☎0173-49-1194(文化課)　FAX 0173-49-1212

発行年月日　2012(平成24)年3月31日
印　　刷　川島印刷株式会社
〒038-3135　青森県つがる市木造有楽町41-1
☎0173-42-2075

Toyotomi-site2・Kamegaoka-site5・Dogizaka-byobuzan-site2
Tagoyano-shell-midden3・Shimoaino-site

2012

青森県つがる市教育委員会

豊富遺跡２・亀ヶ岡遺跡５・筒木坂屏風山遺跡２・
田小屋野貝塚３・下相野遺跡